

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 22 日現在

機関番号：37104

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23330179

研究課題名(和文) スクールソーシャルワーカーの専門性向上のためのスーパービジョン・プログラムの開発

研究課題名(英文) The development of the supervision program for strengthening the expertise of school social workers

研究代表者

門田 光司 (Koji, Kadota)

久留米大学・文学部・教授

研究者番号：50269081

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、スクールソーシャルワーカー(以下、SSWと記す)の専門性を向上するための有効なスーパービジョン・プログラムを開発することである。研究計画では、先進地アメリカ・カナダ・韓国での実態調査を踏まえてスーパービジョン・プログラムを開発し、その有効性を検証していくことである。

研究成果では、SSW初任者を対象に開発したスーパービジョン・プログラムを1年間実施した。その結果、SSW経験3年以上の者が実践している支援方法を全員が実践できるようになった。この研究成果を普及するため、報告書「スクールソーシャルワーカーのスーパービジョン・プログラム」を発刊し、関係機関に配布した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of study was to develop the effective supervision program for strengthening the expertise of school social workers. The research planning was to investigate the supervision program in America, Canada and Korea, to develop the supervision program by referring the survey findings, and to examine the developed supervision program.

After developing the supervision program, twelve beginning school social workers have taken the developed supervision program for a year. As a result, all beginning school social workers could get the professional skills of social work services that over three years experienced school social worker provide for children, families and schools. The research report was published to spread the developed supervision program.

研究分野：学校ソーシャルワーク

キーワード：スクールソーシャルワーカー スーパービジョン 学校ソーシャルワーク

1. 研究開始当初の背景

2008年度より文部科学省は「スクールソーシャルワーカー活用事業」を開始した。しかし、わが国ではいままでスクールソーシャルワーカー(以下、SSW と記す)が学校教育現場で活動してきた経緯はない。そのため、学校における子どもたちへの支援にあたって、SSW がソーシャルワークを実践するとともに、その専門性を向上していくことが欠かせない。そのためには、SSW へのスーパービジョン体制が不可欠である。

文部科学省のSSW活用事業では、スーパービジョン体制を備えることを掲げられている。しかし、2010年9月に開催された文部科学省の全国都道府県教育委員会SSW活用事業担当者会議資料では、スーパービジョン体制を備える自治体は、北海道、福島、千葉、東京、神奈川、静岡、三重、京都、大阪、和歌山、赤穂市、香川、高知、熊本、福岡、鹿児島、沖縄の17自治体のみである。また、これらの自治体でのスーパービジョン体制は、各県の配置形態や人材に応じて独自に行われており、どのようなスーパービジョン・プログラムが実施されているのかは定かでない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、わが国のSSWの専門性を向上するための有効なスーパービジョン・プログラムを開発することにある。そこで、本研究目的を達成するために、17か所の自治体に8か所を加えた25自治体で実施されているSSWへのスーパービジョン体制及びプログラム内容の実態調査の実施、SSWのスーパービジョン体制について先進地アメリカ・カナダ・韓国での実態調査の実施、スーパービジョン・プログラムを開発し、その成果を検証していくことにした。

3. 研究の方法

(1) 国内調査の実施：スーパービジョンの「管理的機能」「教育的機能」「支持的機能」をもとに、「スーパービジョン調査項目用紙」を用いて、各教育委員会のSSW事業担当者、SSWスーパーバイザー、SSWに聴き取り調査を行っていく。

(2) 海外調査の実施：アメリカ・シカゴの関連サービス提供部門(Clinical and Related Services)のディレクター、ロヨラ大学のMichael S.Kelly准教授及びSSWたちからの聴き取り調査の実施、カナダ・トロント市チ

ーフSSW及びSSWたちからの聴き取り調査の実施、韓国SSW協会に所属するSSWからの聴き取り調査を実施していく。

(3) スーパービジョン・プログラムの開発及び成果の検証：「スクールソーシャルワーカー・スーパービジョン・チェックリスト票」を開発し、そのチェックリストを用いてSSW経験3年以上の者群とSSW初任者群を比較検討し、SSW初任者向けのスーパービジョン・プログラムを開発する。SSW初任者を対象に、開発したスーパービジョン・プログラムの有効性を検証する。

4. 研究成果

(1) 国内調査結果：25自治体のSSWへのスーパービジョン体制は、スーパービジョン内容、実施回数、対象者人数等、各自治体独自で行われている実態が明らかになった。主なスーパービジョンはSSWの事例を検討するものであったが、スーパーバイザーの経験的知見でスーパービジョンが行われている状況であった。そのため、全国的なレベルでSSWの専門性を向上していくためのスーパービジョン・プログラム開発の必要性が見出された。

(2) 海外調査結果：アメリカではロヨラ大学のMichael S.Kelly准教授よりスーパービジョン・プログラムの取り組みの聞き取りと資料を得られることができた。カナダ・トロント市でのチーフSSWからは主にピアスーパービジョンが実施されている状況と、その取り組み内容についての情報が得られた。韓国SSW協会では人材養成におけるスーパービジョン・プログラムは開発されているが、SSW自身へのスーパービジョン・プログラムの開発が現状課題であることが示された。この海外調査結果については、研究成果報告書『スクールソーシャルワーカーのスーパービジョン研究 - 日本・アメリカ・カナダ・韓国での調査報告 -』として発刊した。

(3) スーパービジョン・プログラムの開発及び成果の検証結果：開発した「スクールソーシャルワーカー・スーパービジョン・チェックリスト票」(「児童生徒支援項目」23項目・「家庭支援項目」13項目・「学校/地域支援項目」17項目で構成)をA市教育委員会のSSW経験3年以上群9名、SSW初任者群12名を対象に、2014年の2学期(12月)に実施した。その比較結果は、図1・2・3に示す通りである。SSW初任者群はSSW経験3年以上群と比較して、以下の支援が少なかった。児

降は「SSW 初任者 1 年目及び 2 年目のスーパービジョン・プログラム」を実施していく。これは、学校ケースマネジメントを基盤とした「アセスメント」「支援プラン」「支援の実行」「支援の評価」について、1 学期末、2 学期末、3 学期末に 1 回ずつ個別ないしは少人数でのスーパービジョンを実施していく。なお、3 年目以上の SSW 経験者に対するスーパービジョン・プログラムについては今後の研究課題となった。また、SSW のスーパーバイザーとしては、学校ソーシャルワーク実践に関する修士号を保有し、SSW 経験者で、ミクロ・メゾ・マクロレベルの視点から学校ソーシャルワークの実践研究を継続し、教育委員会と SSW 事業を協働して築いていける人材が望まれる。そのため、SSW へのスーパーバイザーの基準や資格についても、今後の研究課題である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 16 件)

奥村賢一、スクールソーシャルワーカーが相談対応する児童虐待の実態と実践課題配置型と派遣型の活動形態に焦点化して、福岡県立大学人間社会学部紀要、査読有、2016、24 巻 2 号、pp.41-60.

門田光司、学校現場における子ども支援学校ソーシャルワークの専門性、社会福祉研究、査読無、2015、122 号、pp.10-17.

鈴木庸裕、朝日華子、高等学校におけるスクールソーシャルワークの現状と課題、福島大学総合教育研究センター紀要、査読無、2015、pp.13-20.

門田光司、アメリカにおける学校でのソーシャルワーク実践研究の動向、学校ソーシャルワーク研究、査読有、2015、9 号、pp.26-40.

門田光司、鈴木庸裕、半羽利美佳、比嘉昌哉、大門俊樹、奥村賢一、スクールソーシャルワーカーに対するスーパービジョン体制の動向調査結果の概要、学校ソーシャルワーク研究、2013、8 号、pp.81-84.

〔学会発表〕(計 8 件)

大門俊樹、韓国における学校社会福祉現場実習指導に関する研究 - 指導マニュアル終結・評価段階の内容 -、日本社会福祉学会、2015 年 9 月 20 日、久留米大学(福岡県).

門田光司、The role of the practice of

school social work in Japan、Asia-Pacific Social Work Conference、2015 年 7 月 11 日、ストックホルム(スウェーデン).

奥村賢一、The role of school social workers in preventing child abuse in Fukuoka city-A case study of inhouse school social workers、Asia-Pacific Social Work Conference、2015 年 7 月 11 日、ストックホルム(スウェーデン).

大門俊樹、韓国における学校社会福祉へのスーパービジョンに関する研究 - 実務者へのスーパービジョンと実習生へのスーパービジョン両面からの検討 -、日本学校ソーシャルワーク学会、2012 年 7 月 8 日、四国学院大学(香川県).

奥村賢一、児童虐待防止に向けた学校ソーシャルワーク実践に関する実態調査 -、日本学校ソーシャルワーク学会、2013 年 7 月 14 日、福島大学(福島県)

〔図書〕(計 8 件)

奥村賢一・他、学事出版、スクールソーシャルワーカー実務テキスト、2016 年、127.

鈴木庸裕編、ミネルヴァ書房、スクールソーシャルワーカーと学校理解、2015 年、242.

門田光司、奥村賢一監修、中央法規出版、スクールソーシャルワーカー実践事例集、2015 年、245.

鈴木庸裕・他、かもがわ書店、子どもが笑顔になるためのスクールソーシャルワーク、2015 年、122.

門田光司・他編、中央法規出版、スクール(学校)ソーシャルワーク論、2012 年、229.

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
こうな出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6．研究組織

(1)研究代表者

門田 光司 (KADOTA, KOJI)
久留米大学・文学部・教授
研究者番号：50269081

(2)研究分担者

比嘉 昌哉 (HIGA, MASACHIKA)
沖縄国際大学・公私立大学の部局等・准教授
研究者番号：50342431

鈴木 庸裕 (SUZUKI, NOBUHIRO)
福島大学・人間発達文化学類・教授
研究者番号：70226538

半羽 利美佳 (HANBA, RIMIKA)
武庫川女子大学・文学部・准教授
研究者番号：70330503

大門 俊樹 (DAIMON, TOSHIKI)
東京福祉大学・社会福祉学部・講師
研究者番号：80594647

奥村賢一 (OKUMURA, KENICHI)
福岡県立大学・人間社会学部・准教授
研究者番号：90584699

(3)連携研究者

()

研究者番号：